

みんなを大切にする横社会の私達



Summary

横社会で生きて来た私たちは、みんな平等であり、競争することもなく育って来た世代であると言われていています。悪く言えば、上の世代とのギャップがあり、私たちは常識知らずと言われ、社会にでて迷惑をかけるかもしれません。しかし、よく言えば、自分の事だけを考えずにみんなの事を考えられる心優しい世代とも言えます。そんな私たちが結婚する時は、来てくれた人みんなに楽しんで欲しいと願うはずです。そして、その楽しさや、幸福感というものは、一方通行ではなく双方に行き渡る、つまり、幸せをみんなで共有しようとするのです。

Flow

1. 背景

上司にまでフレンドリーさを求めるゆとりリーマン

お見合いからお見合いパーティー

競争意識が低い

今ある問題点

みんなでの楽しみを共有してこそ生まれる価値

2. アイデア

① 会場レイアウトの変更

② 「みんな」を大切にしたいコンテンツ

Background

縦社会の薄れ→フランクな関係を求める

■ 上司にまでフレンドリーさを求めるゆとりリーマン

ゆとりリーマンが求める上司像は、かつての日本社会のように「上司が部下を叱ったり、命令したり」ではなく、「かわいい上司が好き」と言われるように、できるだけ叱らず、自分の目線になって一緒に物事を考えてくれるような「友好型」の上司です。友好型とは、支配性が低く感情は開放的な人柄をもつこと。2011年の産業能率大学の調査「2011年度 新入社員の理想の上司」によれば、ゆとりリーマンの6割が友達のような上司を求めていることがわかる。

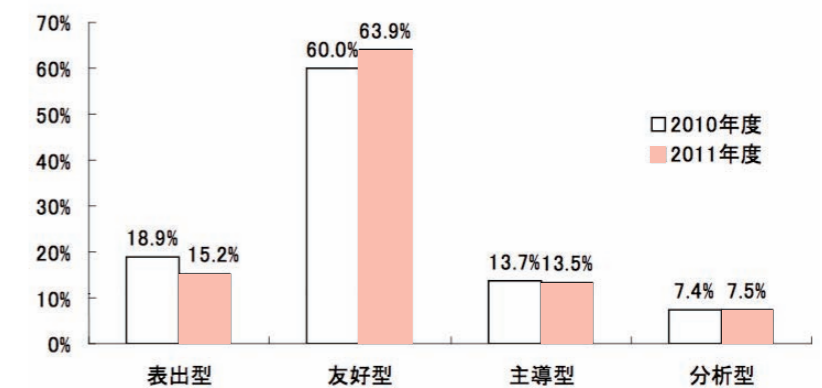
■ お見合いからお見合いパーティー

近年までの冠婚葬祭の儀礼に則って行われる伝統的な見合いは、仲人と呼ばれる人が二人を会わせ、見合いの場所にも高級ホテルや料亭というように畏まった形式であった。しかし最近では、「お見合い」から「お見合いパーティー」に言葉が変化したように、お見合いの形態自体も変化して来た。また、合同コンパのようによりフランクな出会いの場がもうけられ、若者達は年齢も職業も様々な人と会話を楽むようになった。

■ 敬語が使えない / よりフランクな若者言葉

最近では「ゆとり世代は敬語が使えない」と言った若者の敬語離れが指摘されている。生活環境の変化や、ローラやお笑い芸人などといった芸能人の先輩に対する態度や言葉遣いに影響を受けたのも一因ではあると考えられる。また、語尾に「～ッス」と付ける言葉が敬語だと思い込んでいる若者も多く、会社やアルバイト先でも、先輩や上司に対しても躊躇なく使う者も多い。

上司にもとめるソーシャルライフ



出典: 学校法人産業能率大学 企画広報部企画広報課

Background

平等や共有を重んじるゆとり世代

■ 競争意識が低い

「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン」

「SMAPの世界に一つだけの花」この曲に代表されるように、私たちゆとり世代の人間は、競争意識が低いと言われる。また、「落ちこぼれをなくそう」「個性を尊重しよう」といったスローガンから始まった「ゆとり教育」は、競争や順位づけを極端に嫌い、人と比べられもせず、自ら挑戦して敗北するといった事も経験しなかったため、競争社会での厳しさに耐えられない者が出てきている。

具体例

- 「通知表も相対評価から絶対評価」
- 「運動会はみんなで手をつないでゴール」

■ 男女平等社会 男女平等社会基本法（1999～）

- 「ランドセルの色が自由になった」
- 「出席番号が男女混同になった」

ゆとり世代の私たちには「男子と女子」という性による立場の差異がない。

■ 共有したがる

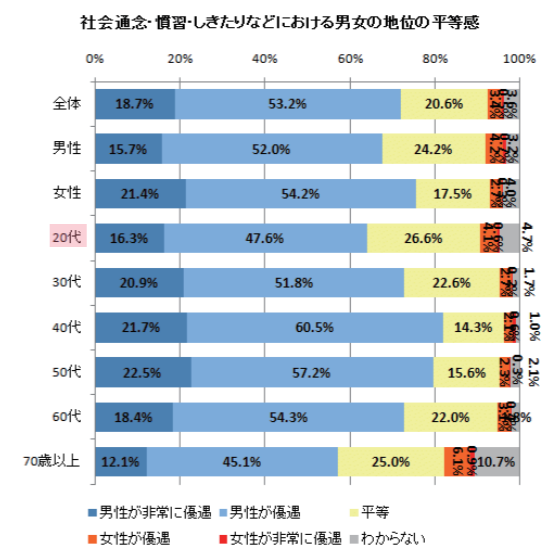
近年見られる共有

- SNS(Facebook/mixi/Picasa)
 - 写真アルバムの共有、情報共有、タグ付け(楽しみ、思い出の共有)
- タコパ、鍋パ
 - みんなでワイワイ集まるのが流行っている
- 夏フェス
 - 似た者同士の集いで新しい友達を作ったり、楽しさや趣味を共有(サークルモッシュ)
- 複合カフェ
 - 一人ではなく、みんなでゲーム(脱おひとり様)

「一人で行うよりも、家族や友達など、他の人と共有することで、より大きな満足感が得られるライフスタイルに変化」

【科学的リテラシー得点の国際比較】				【数学的リテラシー得点の国際比較】					
順位	2003年	点	2006年	点	順位	2003年	点	2006年	点
1	フィンランド	548	フィンランド	563	1	香港	550	台湾	549
2	日本	548	香港	542	2	フィンランド	544	フィンランド	548
3	香港	539	カナダ	534	3	韓国	542	香港	547
4	韓国	538	台湾	532	4	オランダ	538	韓国	547
5	リヒテンシュタイン	525	エストニア	531	5	リヒテンシュタイン	536	オランダ	531
6	オーストラリア	525	日本	531	6	日本	534	スイス	530
7	マカオ	525	ニュージーランド	530	7	カナダ	532	カナダ	527
8	オランダ	524	オーストラリア	527	8	ベルギー	529	マカオ	525
9	チェコ	523	オランダ	525	9	マカオ	527	リヒテンシュタイン	525
10	ニュージーランド	521	リヒテンシュタイン	522	10	スイス	527	日本	523

【OECD東京センター発表資料より】



Background

■ 今ある問題点 / 現状

招待される側の声

- 余興にオリジナル感がない
- 新郎新婦2人だけが楽しんでいた
- 新郎新婦と会話する機会がなかった
- 一部の人間だけが過剰に盛り上がっていた
- 初対面の人が隣の席で困った

招待する側の声

- 上司や会社の人を呼ぶか迷った
- 席次を考えるのに困った



みんな2人を介して来ているのに、人によって距離感が違ったり楽しさの度合いが違ったり、疎外感さえある。

○参加形態

カジュアルなパーティー形式の披露宴が増え、招待客も友人中心となりつつあると言われる一方、意外とまだ上司や同僚友人など招待する際、バランスを重視していることがわかった。

未だ一番の割合を占める『バランス重視型』

招待する側：折角の結婚式楽しみたい（需要）

招待する側：参加者みんなに楽しんでもらいたい（供給）

結婚する側、祝う側、みんなが楽しめるように！

友人も同僚も、上司も家族もみんなが楽しめる

5年後

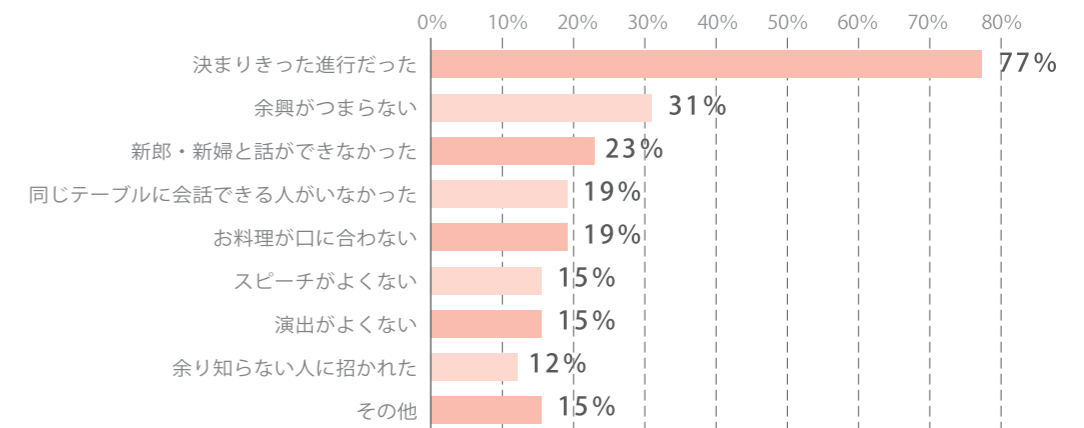
「みんなで楽しみを共有してこそ価値が生まれる」



idea ① 会場レイアウトの変更

idea ② 「みんな」を大切にしたいコンテンツ

楽しくなかった結婚式の理由



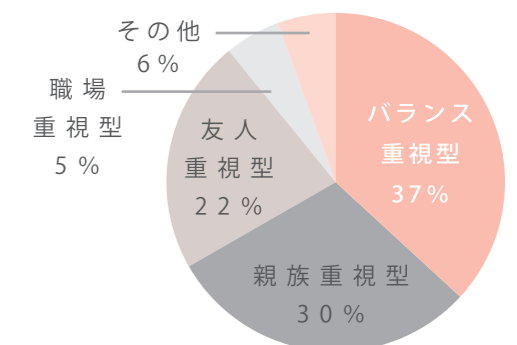
出典：ゼクシィ net

招待客の顔ぶれと平均人数

親族	30.5人
学生時代の恩師・友人	22.6人
勤務先の上司・同僚	15.7人
親の友人・知人、近所の人	4.4人
その他	3.0人

出典：親ごころゼクシィ net

披露宴の構成



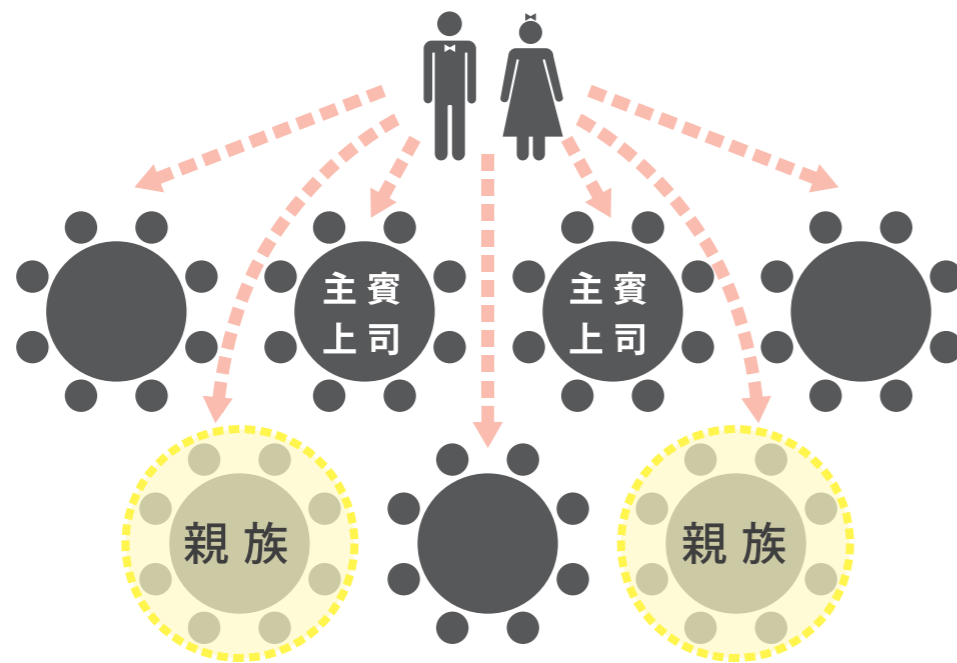
出典：親ごころゼクシィ net

idea

「みんな」を大切にしたい会場レイアウトの提案

従来のレイアウト

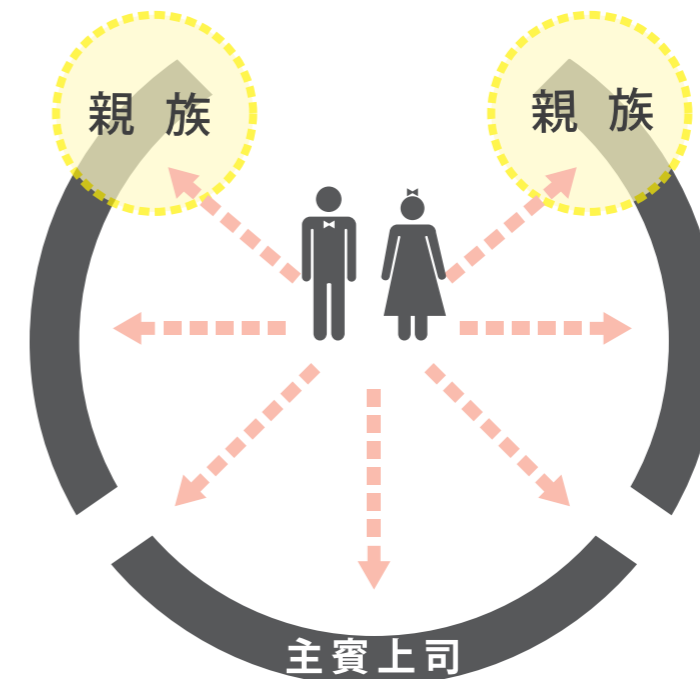
「新郎新婦との距離が遠い」



今までの披露宴は、2人が座る高砂席、そしてそれを真ん中にして左右に新郎側、新婦側と分けられ、さらに、上座には上司、下座には親族という形態でした。また、招待客には個々の椅子があり、グループ毎にテーブルに分けられていました。このレイアウトでは、自分の席が固定されているため、あまり移動が出来ず、テーブルの中の人同士で会話をすることが一般的でした。

提案するレイアウト

「参列者全員が新郎新婦に近づきやすく」



私たちが提案する会場は、2人を中心に会場内をみんなが自由に動き回る事ができ、2人と招待客、そして招待客同士の距離感も近くなるというものです。このレイアウトには、高砂席や上座下座というものが目立ってなくみんなが同じ場を楽しく共有できるようになっています。2人を基準に円弧を描き、近い方から親族、友人、同僚、上司という配列になっており付き合いの長い人たちを近くに、今からお世話になる人たちを正面に配列することで、新郎新婦や親族が招待客を迎えるという要素を取り入れています。

idea①

会場コンセプト

「木の下」

～人の集う空間へ～

「木の下」それは「ひとが自然と集まってくる場所」
晴れた日には暑さをしのぐために木陰に集まり、雨の日には雨宿りをしに集まってきます。
そんな、みんなの集う場所「木の下」をモチーフに造形を展開していきました。



idea 模型写真

↓ ソファで寛いで喋ったり、テーブルに集まってきて喋ったり、みんなが楽しい雰囲気の中で過ごすことができる

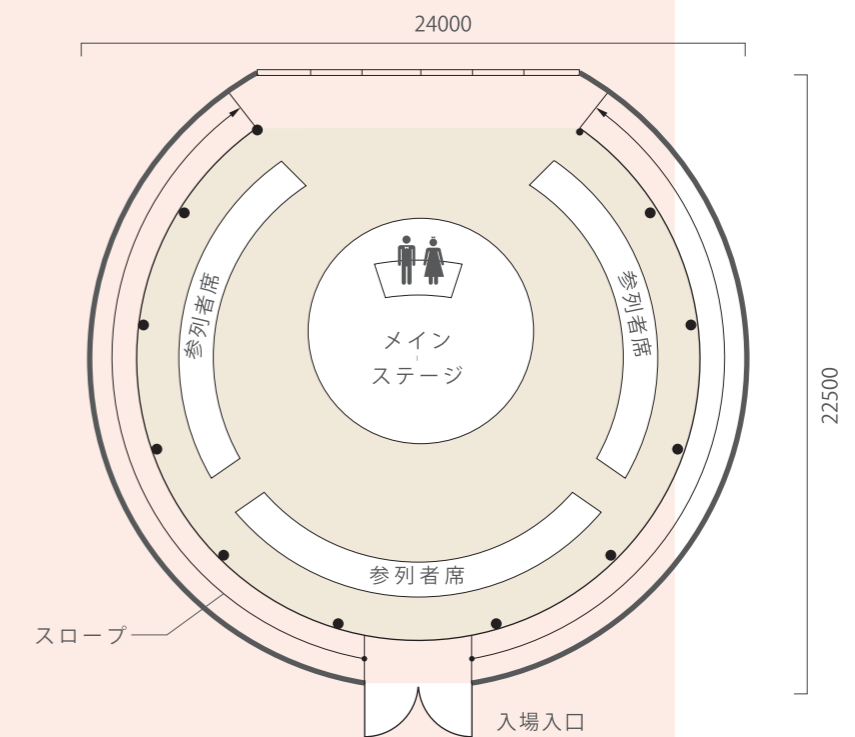


↓ 天井を低く設計したことで広い会場でも心地よい狭さの空間を演出している

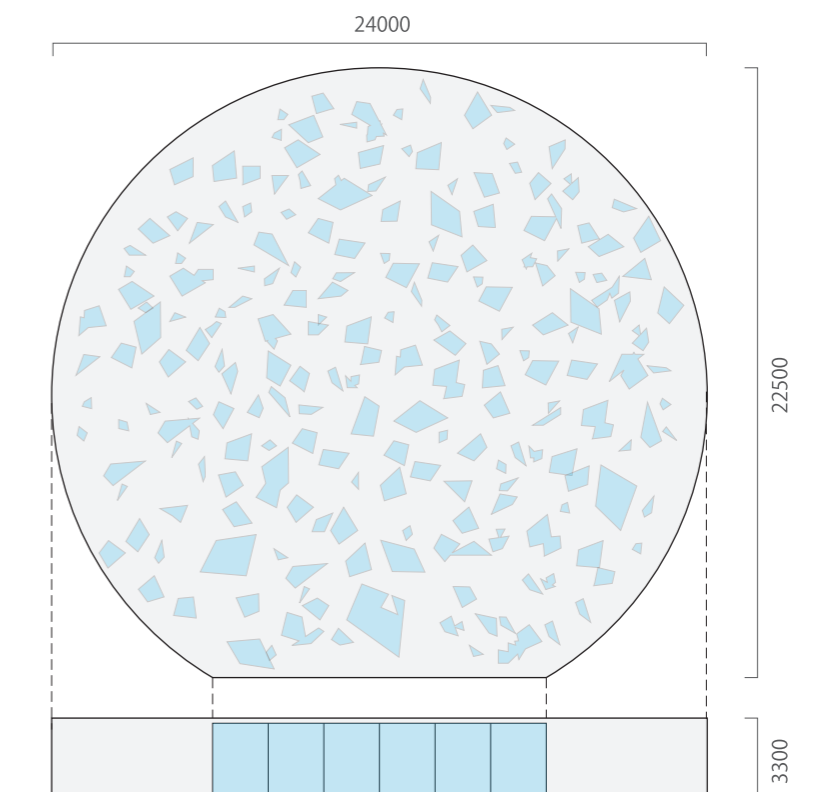


↑ 天壁を有機的にくり抜くことで、太陽からの光が入り、木漏れ日を感じられるようになっている

LAYOUT
INTERIOR



LAYOUT
EXTERIOR



idea② コンテンツプログラム



入場

ブーケトス

上司の言葉

乾杯

友人代表の言葉

お色直し

メッセージリレー

水合わせの儀

ケーキカット

ビデオレター

お色直し

新婦の手紙

新郎父の言葉

新郎の言葉

フラワーシャワー

退場

Idea ①

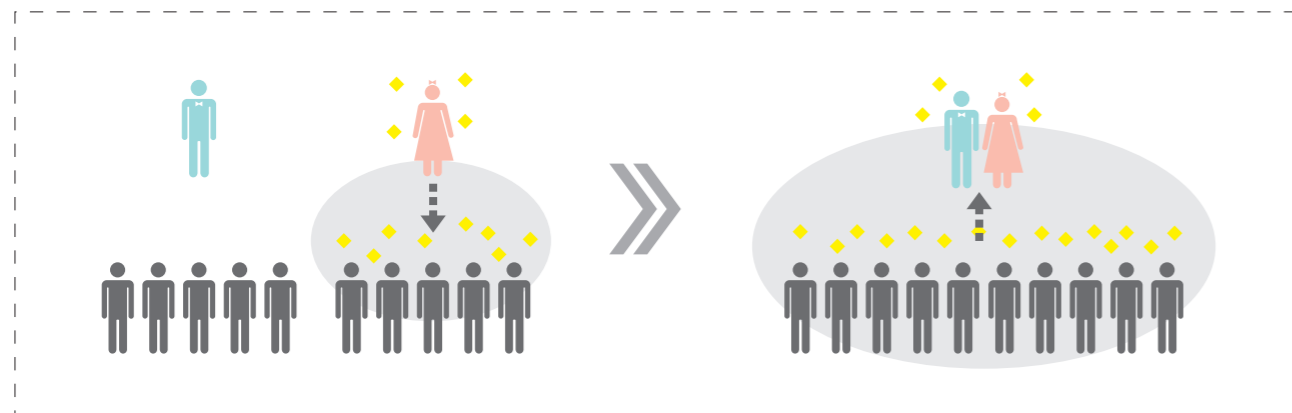
ブーケトス

～みんなで作る二人への花束～

みんなで作るブーケ。私たちの提案するブーケトスは、今までのブーケトスのようにあらかじめ用意されたブーケを挙式の最後に花嫁が投げるといったものと違い、みんなで花（コサージュ）を投げてブーケを作り、花嫁にプレゼントするというものです。具体的には、挙式が始まる前に一人一人に花のコサージュが配られます。招待客はそれを付けて出席し、披露宴中のブーケトスの時にコサージュを玉入れのように幸せの箱に投げ入れます。「ブーケをとった人が次に結婚する」というように「コサージュが箱に入った人は幸せになれる」というようなおまじないもあります。そんなみんなからの花束を新郎新婦が受け取るというコンテンツです。（ちなみにブーケトスのチャンスは何回でもあり、基本的にはみんなのコサージュが入っています。）

小ブーケは会場の入口で受け取り、投げ入れるまではコサージュとして使うことができる

かご部分を取り外すと花束になる



Idea②

メッセージリレー

～一人一人を大切にする～

結婚式に参加しても、「2人と会話する事ができなかった」という不満の声が多く、私たちは式の途中で新郎新婦2人が、招待客一人一人と直接交われるコンテンツを考えました。会場の円弧に沿って並んでいる一人一人に、新郎新婦2人がメッセージカードを渡していくというものです。今はテーブルの上にある名札の裏にメッセージを書いているなどの似たコンテンツはありますが、それでは直接関わる事が出来ません。2人が一人一人に「来てくれてありがとう」という感謝の気持ちを伝えることができ、みんなも2人から直接感謝の気持ちを伝えられることで、心温かい雰囲気になります。また、メッセージカードを渡すと同時に、マイクを使って「高校時代の野球部の友達で、あだ名は〇〇です。」といった簡単な紹介なんかをしてあげてもいいかもしれません。



Idea ③

ケーキカット

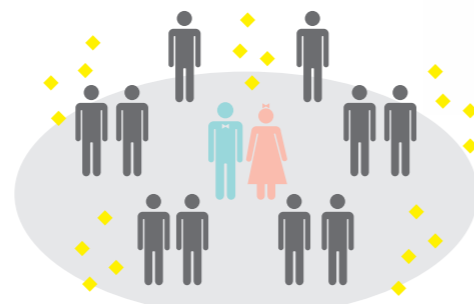
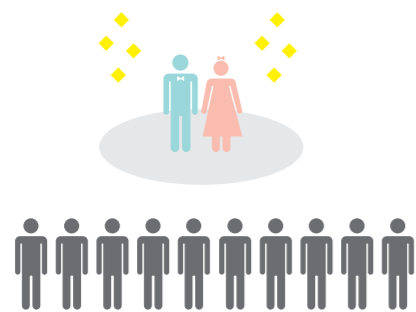
～みんなで共有～

今までのケーキカットは「二人での初めての共同作業」や「みんなへのお裾分け」といった意味合いで行われていました。しかし、私たちが提案するケーキカットは、来てくれている人みんなで楽しみを共有したいということで、2人だけではなく、みんなにもメインのケーキカットに参加してもらおうというコンテンツです。一つながりの長いケーキにそれぞれに用意された小さなナイフで一斉にカットします。2人しか出来なかった特別なケーキカットも、みんなに見てもらうだけではなく、一緒に楽しんでもらおうという、みんなのことを想う私たち世代ならではのコンテンツです。

円形のケーキの好きな場所を選び、カットすることができる



ケーキを切り分けた後に、そのまま食べられる



Idea④

フラワーシャワー

～みんなで咲かせる大輪の花～

みんなで協力して大量の花びらを新郎新婦に振りかけるといった派手な演出です。今までのように一人一人が花びらを振りかけるといったものとは違い、みんなで力を合わせて紐を引っ張り、大きなくす玉を割ります。「引っ張る」「割る」といったアクションが参加者にワクワク感を与え、みんなで一つのことをしているといった会場の一体感を味わう事も出来ます。



中央のくす玉からのびた紐を参加者みんなで引く